

# 文政雜記

|     |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| 和書門 |   | 類 |   |
| 三   | 二 | 三 | 二 |
| 一   | 四 | 一 | 六 |
| 冊   | 架 | 函 | 號 |

|      |   |     |   |
|------|---|-----|---|
| 內閣文庫 |   | 和書類 |   |
| 三    | 三 | 三   | 二 |
| 一    | 四 | 一   | 九 |
| 冊    | 架 | 函   | 號 |

|      |         |        |  |
|------|---------|--------|--|
| 內閣文庫 |         | 65     |  |
| 番號   | 和       | 31'732 |  |
| 冊數   | 4 ( 2 ) |        |  |
| 函號   | 150     | 142    |  |

史六八



卷65

天保二年  
文政十一年  
十二年  
十三年

恭賀

大孫著袴盛儀

掌上明珠絕世資

常聞寶愛樂含飴

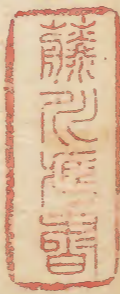
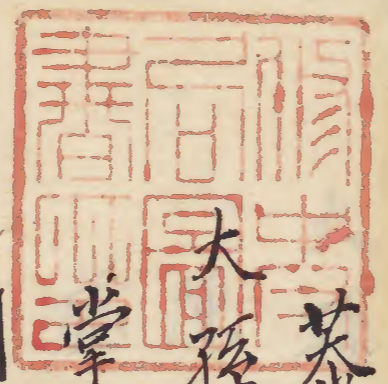
加覽既仰修豐典

著袴還瞻舉盛儀

離鶴向霄初刷羽

經雪更抽枝從今待

得他年業映光前正



園期

從五位下大學頭臣林衡再拜上



茶

大孫有著袴盛儀恭賦

陳賀

盛典方修值獻春鶯

歌燕舞報昌辰開筵

曩戴雲髦美整服令

披綺袴新 懿德芬

芳傳奕葉 冲儀岐

嶽特超倫 君恩賜

宴羣僚醉滿殿歡

唱壽頻

臣林銑再拜上

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

孟春二十一日

大孫著袴恭賦奉賀

瑞雲護日應天休

內殿張筵禮益優正保元文規可續

鏤倉室所典難儔花迎錦袴梅香動

歌從霞觴鶯語稠

岷嶽夙成

威與

德

重熙千歲照

神州

侍講臣成島司直謹

大孫有著袴儀恭賦奉賀  
萬壽無疆日永天長  
大孫有著袴儀恭賦奉賀  
萬壽無疆日永天長  
大孫有著袴儀恭賦奉賀  
萬壽無疆日永天長

大孫有著袴儀恭賦奉賀

萬壽無疆日永天長

城春色正熙

黃裳丕績欣虞化

錦袴威容想漢儀

御柳青歸雙日闕

官梅香動萬年枝

馬蹄車轍皆歡韻

收入東風作賀詞



源朝臣家祥

右可從二位

中務相門之麟孫將家之鳳雛  
幼揚祖風夙稱師模新授階  
級式顯恩殊可依前件主者  
施行

文政十一年二月廿七日



從二位家祥

右可正二位

中務親仰父祖面奉規箴克  
稟鎮國之性已懷撫衆之心  
宜登崇階重示賞音可依前  
件主者施行

文政十一年二月廿七日

從二位源朝臣家祥

正二位行權大納言藤原朝家厚

宣奉 敕件人宜令任

權大納言者

文政十一年二月廿七日  
兼攝頭酒助教中原朝師德 奉

大正三年正月廿七日  
林  
宣  
五  
次

從五位下大學頭臣林衛誠謹誠并頓首頓首

龍槐敷蔭正當蕃盛之辰台星增輝益呈萃榮之象

喜覃寰宇歡遍

都城臣衛誠謹誠并頓首頓首恭惟

大孫殿下

岐嶷之姿

聰達之稟

國本定而鞏固

寶位承以尊嚴爰前佳期敬陳一旣今迨吉日虔行三加

斯禮也昉夏后成殷周

我制則追正保據寬政廼見執其事者非同姓必功

臣之裔預其宴者自封侯至群司之時矧復

天使昂來

寵以

隆任與

崇叙

幕延接對

酬用重幣兼豐儀鼓吹喧舞袖爛嘉慶備旨酒馨

伏惟弃其

童心將從

成德宜踐

懿分乾以慎

令儀親賢而愛人必期克純

祖武遠倭而追義所冀靡忘

庭訓臣衛濫操禿毫漫奏薄伎獲會於昌運荷

眷顧於明時回想三十年前曾歷

西闈之嘉儀再睹遵行弗替因知千百載後永傳

東府之盛典重能治用固違不勝激切屏營之至奉

箋稱

賀陳

聞

文政十一年夏四月

從五位下大學頭臣林衛謹奉

箋

臣林甌誠懽誠抃頓首頓首言

瑞旭東昇煙雲騰網縕之彩  
薰風南自卉木被長養之息  
際茲雍熙孰弗懽樂臣甌誠懽誠抃頓首頓首  
恭惟

大孫殿下

英資有種

夙慧無倫

岐嶷之風存

婉孌之美天心深注人望其歸  
惟歲疆于困敦迺律回於

仲呂桐華始發奠葉四舒

楓宸策

寶命發皇華

柳營張

綺筵設賓禮爰導

奕葉之舊典重躋

先蹤於榮途尚

妙齡而承

亞相之重任肇加

元服以躋

二品之崇階三加祝成高仰巍然華冕一獻儀畢新

披燦爾繡袍迺正

威儀道昭備服頓棄

幼志誼悛成人伏願

似續之風克繩

祖武以弘業

聿修之德因

孫謀而固基則豫加

宗祊之有所依賴而益見海寓之靡弗靖寧也臣既奉

辱備負之班每陪賜宴之末曳獎裾而雀躍陳先

筆之蛙鳴無任激切屏營之至奉

箋稱

賀陣

聞

文政十一年夏四月十五日

臣林既謹奉

箋

臣成島謙誠頓首頓首

伏惟

魏二名紅葉山王芝既呈二

神瑞二名

紫宸殿金版果錫二

寵章二天意與人心俱應二

朝儀兼二

皇命駢舉二

宗社重典闡國鴻慶二臣謙誠二頓首頓首二恭惟二

大孫殿二

岐嶷之姿嶽峙而山秀二

升恒之德日朗而月明儼

威容於三加炎帝司節責成禮乎四行

王賓在筵遭青鳥之捧書觀金蟬之上額蓋天一拜而叙

丞相仍治

幕府之舊規至於二等而晉

正班也為

皇家之殊眷伏願捨幻志擴良心仰承

烈祖

神宗之貽謀俯服

太君

備主之猷訓則姬昌之業炳彪於他年而漢宣之勳鏗鏘于

後日也臣辱遭徵賀情切獻芹虔綴蕪詞以標寸臆有同

葵藿之傾日庶幾葑菲之不不遣不勝激切屏營之至

謹奉箋稿

賀陳

聞

文政十一年夏四月

臣成島 目直 誠懼誠抃頓首頓首

上言伏以

星輶緬駕震陽瑞於柳營

鳳詔遙傳晉錫合符於槐府奉憤換袍之典賓序

王人撞鐘張樂之延

恩被羣庶慶闡

宗社歡溢萃夷 臣直 誠懼誠抃頓首頓首竊惟治國之言

要存謹始成人之道責在初冠使能錄賢周公命頌於大吏

知思欽若晉帝受辭于御林離襪褫而拜

紮泥既告

宗祧

祖廟既絳紗而荷



黃冊正膺監國撫軍恭惟

大孫殿下天資敏聰生存岐嶷問安之勤不失奕葉之美  
規視膳之勞有加重洽之芳躅三加成禮大典較之元文  
而有光一推叙班崇階以之正保而益耀蓋異數雖出  
皇朝之持旨寵榮實由

大府之茂勲司直備員內班承之顧問叨厠百僚之末列

預聞金石之餘音伏願

殿下弃其童思率遵

祖宗之嚴訓拋此嬉戲優游文武之藝園惠於財嗇於  
時兆民浩覆載之化濟於今鑑於古億歲施尚偃之仁  
將觀媲美唐虞鳳儀鳳舞既期以隆周漢芝秀  
禾豐不勝激切屏營之至謹奉箋陳

聞

文政十一年夏四月

卯月より此ありしは一先事  
若君御元服の後おろす  
於多口御津子位給へ世給ひ  
大納言更とある奉承しき申候  
うけい後より御祝に候て  
奉承候ひ候

此不潔名思御し一先給ひの事より言記ありとよ  
かき世に代とおもひ候へ人三禁れ其意とつら

法眼季子

甲月廿日大望の月の上達部殿上人

松をいひて山をいひありけるを記

り候は落のしるりに侍てよある

奉とまひ初言はし成ふり天川定好の事

東流のしる海て西のしる海を好む松をいひし山の

筆の松の傍

法眼季文

文政十一年三月四日於禁山

御系詣御見の和哥並小序

屋よの冒れ河の御系山の御宮小詣て

させ給ふことの喜の流りしるし御昇

進のしる初めしる交ふかりし後をいひや

あゝむりし流よをい舞し事とゆる

させ給へしを誰あかしに侍り候ひて

重んじしをいし屋系所橋の古なりし

並居りし舞し事とゆるし日影も古なり

西陣所の清長柄子比きくふ美うの  
あけつ紀も千代をむす處る有き處  
侍奉れ人々は之を糸一紀と也仕下れ志き  
ぬえ何とるもあぬ物々志めとめえ  
そ若き侍は随分も負持れて色くく  
きく持よつゝ矢ふくおたつるもいと侍き  
つ記し人々赤色姿を志す不の志り  
有いて若かりもぬ也志きいふ海軍一志  
志きい中た又以只よ記さす  
御車持

いれと云事はおたむや初の外も布衣素  
襖立の志り望て候ひましく志系乳とらふ  
治不脚世此志りいかに志をあは候り  
これと志き係持れあはよよ此志のいて  
志紀一々打きしらむおきく志く色甲斐  
うむしく志あはやう志の志き事とも  
志と志きも中くめえ志きく志系

時川志の志いも志の志れる世の志は  
志と志と志と此志成らん

あはれに春秋富海法外  
とみちの山

花條の

たし

法眼季文

司直

弥生四日取葉山北津宮ふまき  
つひけふあはれはあし御所御舞  
進の後をいそぐの津葉なれ  
君はねごとを神のたしきささ  
神をうまるとみそけいすむ  
位をたふとあふと晴とよを  
曆生あ長をりあ近傍のよを  
もこうべを所を副の六位

そしちまのつゝまふえーいん

あけ縁神をほつて春の日は

をりまはりーと少神の座あ

お葉山お葉林りー此職のけく

を水をよまわふ春の徳人

とのまもひけいけい御宮ままへし

まーいん

あけまを起りけくもまへたのりや

御前まらわく作く御ーいん

お葉山の記

去年れ春相國ふすはまの西の所

あも極位まはりまをわらおも清重後

いへく内陣後の室下と御前ま清重後

えれことまの御前まをほつておまへん

よひのまを地山まをいへまの日の清

所の清重まを惣文流のまの御前ま

福正袍據例日光山御縁元所並おふあま躑躅の清下かまの

も厚福のまを花をまま白綾山あまの

山阿志志海文を著し山草表の山々  
の裏も山々も白文の宿徳の持れり

用いらし緋地唐組乃山平緒府陰螺鈿の

赤銀巡方此法常鴨臨有撰 櫛の山竹

紅葉山神寶

志呂記檀の山竹か負山松あふれも

赤山といとも多記て平きぬの山竹

字山とまき山辰の別れすさぬる以

吾罪の板椽より山轆まめさぬる以

ほり糍もこと持てて府生武人小敷長也

己を情六人とは何の作詞より山竹

負を満きましたる山竹一負の隨身

山竹も年若も位禰とけ免て用ひ

弓箭も山竹仗り山竹たまりて胡録をみ

おたけよ山竹より御車副も六人を

用ひの山竹よ山竹の山竹赤き思

山竹を山竹より飛井坊のすりも

たり山竹の山竹も山竹よ山竹

山竹の山竹山竹山竹山竹

小納戸も雑色にあはるの布衣袴をかきの  
三人川に流後お隠ひおけて酒の所おは  
裏門とて名をいふ侍のききおは橋乃  
こゝろにまはり列をいふ侍のききおは長  
侍の負おはる人おはりおは侍のきき  
文意おはる屋一車副と四人おはりおは  
らし初頼おつとて酒をいふおは侍のきき  
人樂法英一留井の侍とておはりおは  
浪津侍はよきて酒をいふおは侍のきき

屋一平田少将 用樋螺細叙 清刀職叙正

すまきおはる侍の強門とて侍のきき

院におはる侍のおはる侍のきき

すまきおはる侍のおはる侍のきき

織田侍は 用徳見院殿 異文袍 赤かお伊賀侍は

い笠山侍はおはる侍のきき

河内侍はおはる侍のきき

内侍はおはる侍のきき

河内侍はおはる侍のきき



和尙——又御辨當より御ハ小田氣清延用飾

長恩待候字々當り内内候所ハ

臨ふ所々々御辨候所々の他法も

ゆきとがこりれらりは法神候と云

まハ輪王寺一品字紫系指法貴  
雲立浦叔務新宮御系指紫  
雲立浦指貴

階下まへおらり候きゆふ笹山待候御先下

南無七 勅款の法門候もつき以ふ法候

まじりこと候所々々御きりまじり候と

心候かへ支所所ハまじり候より候なり

名ふ所候也還御せしき市界進候

古けり候かあまも糸——此御宮

まじり候所々々御行候もかきりぬるゆ

ふあむむりよこへもねり候と云

ゆり候所々御橋の本と云よりあま

まじり候所々の御さみり候等候と云

南——御辨

この御も御候の志と云ふかま

て御身候事 副の御候と云

おのいけけ家

きちりぬぬ柳はらぬの色をて

おのいけけ家の春をて

文政十一年三月

おのいけけ家

おのいけけ家の大相國由昇らき終ひて大御をて  
夏のおのいけけに行りせらるる公郷殿上人の冠直衣  
武殿の百目讓衣射間よとの昇進進退の波牙  
すぬきやまの生の序他法よ道やるさ記  
おのいけけ家のおのいけけの墨いといひて板衣よ役  
おのいけけ上人の生とせられしおのいけけの生  
のしりらよなげけをてぬき實政公續公格  
おのいけけの生おのいけけの生に中  
おのいけけの生おのいけけの生  
天候をてぬき一人おのいけけの生